

平成 28 年度（第 2 回）久留米市食料・農業・農村政策審議会 議事録

日時：平成 28 年 11 月 18 日（木）10:00～11:30

場所：えーるピア久留米 210・211 研修室

出席者：福田会長、林委員、井上委員、金子委員、吉田委員、野村委員、井上委員、  
宇佐川委員、北川委員、中野委員、米倉委員、大坪委員、中園委員、  
池田委員、矢次委員、高尾委員 以上 16 名  
(欠席者：吉永委員)

事務局：農政部 山口部長、半田次長、農政部農政課 中尾課長、大野主幹、  
堤課長補佐、池島主査、鉢嶺、石井、生産流通課 山手課長、  
みどりの里づくり推進課 中山課長、古賀主幹、農村整備課 古賀課長、  
田中主幹、農業委員会事務局 田中局長、千代田主幹

傍聴者：なし

- 次 第：1. 部長挨拶  
2. 会長・副会長の選任  
3. 自己紹介  
4. 第 2 期 久留米市食料・農業・農村基本計画の概要  
5. 協議事項  
(1) 久留米市の農業生産について  
(2) 平成 28 年度 主な事業の進捗状況  
6. 情報提供（委員及び事務局から）

議 事：

1. 部長挨拶

部長	挨拶
----	----

2. 会長・副会長の選任

事務局	会長に福田委員、副会長に吉永委員を選出
-----	---------------------

3. 自己紹介

委員	各自己紹介
----	-------

4. 第 2 期 久留米市食料・農業・農村基本計画の概要

事務局	【審議会の位置づけ、計画の基本概要についての説明】
-----	---------------------------

5. 協議事項

(1) 久留米市の農業生産について

事務局	【配布資料 久留米市の農業生産について 説明】
A 委員	1 ページの農業産出額は H25 年のデータとなっている。久留米市は葉物野菜の生産に注力している筈だが、H26 年、H27 年以降の数値は出ていないのか。

事務局	国と県の農業産出額については、農林水産省から平成 26 年の数値が公表されている。市町村の農業産出額は公表されていないため、久留米市独自で推定しているものである。推計値を算出する際に、久留米市の農業生産の生産量を押さえて、県の生産量と比較・案分し、積み上げていく方法をとっているが、そのデータが数年遅れで出てくるため、必要なデータが揃わず、平成 25 年の農業産出額を資料にお示しした。
B 委員	ここ数年、急激に海外からの外国人技能実習や雇用が入ってきている。私の近所でも十数名おられる。大規模経営をしていく中では、外国人の労働力は必要不可欠になってきているので、今後の農業経営に十分活用できると思うので、JA や大規模経営を通じて人数の把握だけはしていただければと思う。
事務局	2 年程前、今のような話があり、市でも調べようとしたことがあるが、調べられなかったことがある。ある JA の方に話を聞いた中では、昔は JA が仲介して実習生を世話していたが、今では農業者が独自で受け入れの手続きをしており、JA としても把握できないとのことだった。また、県の普及センターでも、把握は厳しいということだった。しかし、委員が言われたように、非常に外国人実習生が増えている実態もありますので、把握の方法は模索していきたいと考えている。

## (2) 平成 28 年度 主な事業の進捗状況

### ①個別施策 2：地産地消と食育の推進

#### 「子育て世代向け料理講習会」

A 委員	道の駅くるめは、行政も絡んでいる財団で運営していると思う。久留米の農産物売るだけではなく、例えば、久留米の農産物を使った新しいレシピとか料理教室とか、参加型の企画をやったらどうか。
事務局	道の駅には様々な資格を持った職員を配置している。野菜の知識、新しい野菜の料理の仕方など、職員がお客様に対して提案しているが、料理教室などの参加型の企画は行っていない。道の駅は久留米の農業の発信の場として重要な役割を担っているので、ご意見のような参加型の仕掛けに取り組んでいきたいと考えている。しかしながら、料理を行える施設が無いので、農業公園を使うなど、他の施設との連携も検討していきたい。
A 委員	久留米シティプラザができたが、久留米の農産物などの情報発信をするようなスペースはあるのか。

事務局	<p>シティプラザを活用した農産物の PR については、今年度の予定ですが、久留米市が事務局を務める久留米市農商工連携会議の取組として、農産加工品などを集めた見本市を開催したいと考えている。また、見本市にあわせて、六角堂広場で B to C の消費者の方々への農産物や農産加工品の PR の場を作りたいと進めているところである。</p>
C 委員	<p>農産物のレシピ集ですが、どちらで配っているのでしょうか。できれば私がおります「よらん館」にも、置いていただきたいと思う。私たちは、毎月 21 日に試食会をやっており、以前レシピ集を見て作ったこともあり、非常に役に立った。どういうふうに、皆さんの手に渡るようなシステムにしているのかお尋ねしたい。</p>
事務局	<p>今現在は、本庁舎、それぞれの支所、道の駅などで、冊子を配布している。市民の皆さまにご利用いただくのが目的なので、委員からお話があったような形で利用されるという事であれば、配布させていただきますと考えている。</p>
D 委員	<p>久留米シティプラザでは、コンサートや講演会が開かれている。集客力のあるイベントに合わせて農産物の PR をやっていけば、久留米市からだけではなく、市外の方への PR になると思う。</p>
事務局	<p>シティプラザのグランドホール等で大きな催しがある時にイベントを開催すれば多くの方に足を運んでいただけたらとは考える。先ほど予定という事で申し上げたシティプラザを活用した農産物の PR 等についても、イベント等のスケジュールを把握して、大きなイベントがある時に開催ができればと考えているが、他の事業とのスケジュールやスペースの空き状況もあり、大きなイベントと一緒に開催する事が出来ないケースもあると思う。今後シティプラザを活用する場面は多々あると考えているので、委員から頂いた意見を踏まえ、開催調整等やっていきたいと考えている。</p>
E 委員	<p>A 委員が発言された道の駅くるめでの情報発信は、既に野菜ソムリエの資格を持った人がそれらしい格好をして売り場で野菜の PR をして、市外から来た人にアプローチするなど積極性が評価できる。また、今は野菜の値段が高いので、葉物野菜が充実していて、地産地消が進んでいる暮らしやすい町というのが PR できるチャンス。広報くるめの「子育て世代が地産地消を体験」というページを見るだけでも、良い町だという感じがした。さらに、市外の県民にも、久留米の農業の状況をさらに前に出していきたいと思う。例えば 11 月 23 日には久留米フェスティバルが天神で開催されるが、このようなイベントで、シティプロモーションの意味でも大きく農業を出していけたら良いと思う。そういったアプローチについてはどうされていくのかお尋ねしたい。</p>

事務局	今委員からお話があった“くるフェス”は、福岡市役所の西側にあるイベント広場を活用し、久留米市の全体的な PR をやっていくという事業です。久留米市を PR する中では、当然、農業は重要なファクターなので、JA くるめ、JA にじにご協力いただき、久留米市の農業情報発信、販売ブースを設ける予定である。また、“くるフェス”では耳納北麓の魅力の情報発信ブースも設け、道の駅くるめにも出店いただく予定であり、くるフェスの中でもしっかり農業の発信をしていきたい。
A 委員	最近、情報の入手はスマートフォンやインターネットが多い。料理レシピについて、クックパッドなどのネットを使った情報発信も考えているのか。
事務局	広報くるめの記事の資料に掲載しているが、地産地消についてネットでの情報発信では、推進店のスマホアプリがある。併せて、市のホームページで、地産地消というカテゴリーで情報発信をしている。さらに、委員が言われたクックパッドにレシピを掲載している。

## ②個別施策 5：女性農業者の育成と活躍できる環境整備

### 「平成 27 年度 女性農業者実態調査の結果報告」

C 委員	回答率の 50%というのは、少ないと思う。計画された時にはどのように調査するつもりだったのか。
事務局	実は前回は 36%ほどの回答しか得られなかった。今回、郵送でお願いをして、前回よりも回答率が低かったので、再度、回答が無かった方をお願いをしたという経過がある、それでも回答率は半分しかいかなかった。今後、アンケートの仕方として、例えば農業団体や女性グループの方にご協力いただきながら調査をしていく必要があると考えている。
D 委員	地域によってパーセンテージは変わってくると思う。地域柄があると思うが、地域毎の集計もされているのか。
事務局	地域毎に集計はしているが、改めてご報告させていただければと思う。
D 委員	地域柄だけでなく、作物によっても違いがあると思う。そういったところも調査して欲しいと思う。回答数が少ないのは、女性の意識も低いと思う。この 106 人の中に私も入っていると思うが、特に若い方は育児や農作業に追われているということがあると思うが、家族の協力が必要である。

事務局	アンケートをするなら品目、地域といった集約が必要だと思う。ただ、昨年度のアンケートでは2回声をかけたという状況の中で、アンケートを答えていただいた方は前向きな方だと考える。今年から普及センターと市の担い手協議会で就農5年目までの女性農業者の研修をやっているが、若い方は農業に携われて非常に厳しいものもあると思う。アンケートのとり方については、JA等を通じてお願いする方法も考えていこうと思う。また、普及センターともお話ししているが、研修の時期も、配慮をしながら取り組んでいきたい。もう少し、データを集めて、今後の施策に反映出来ればと思っている。
F 委員	8 番の農業分野の政策企画・方針決定などの場面に女性の進出が進まない理由で、女性の積極性の不足というのは問題と思う。また、(3) 報酬のところで、家族の支援・理解を得ていけないところがあると思う。アドバイザーの話がきたときに、私は少し躊躇しました。夫から、勉強にもなるし、人との繋がりもつくれるので積極的にやった方が良いという言葉があって、参加させていただいている。やはりパートナーの声というのは非常に良いものだと思っている。
G 委員	普及センターでも市と協力して、女性農業者向けの研修会を充実させて実施している。今後も皆さんの協力をお願いする。

### ③個別施策7：販売力の強化

#### 「久留米・うきは圏域産の柿を中心としたトップセールス」

B 委員	商工会議所のアイデアレシピコンテストで柿を取り上げていただいている。3年前はリーフレタスを取り上げていただき、そのレシピを市が冊子にして、市場にPRするのも大変喜ばれ、料理販売も出来た。今回、柿が取り上げられていることをJAくるめの担当者は知らなかった。商工会議所主催で、市も絡んでいるとは思いますが、横の繋がりがあれば、相乗効果が得られるのではないかと。今日はJAくるめの常務が来ておられるが、情報というのは途切れてしまったら終わりなので、横の連携を上手い具合にとって欲しいと思う。
------	--

#### ④個別施策 11：農村地域の活性化

##### 「フルーツ観光モデル事業」、「耳納北麓地域体験事業（くる農）」

F 委員	忙しい時期に新しい補助事業の募集が回ってきた。申し込みたかったが、よく考えてから申し込みたいと思うので、時間が無くキャンセルしたが、もう少し早い時期にしていれば、色々と計画が出来ると思う。もう一点、“くる農”ですが、せっかく農業の体験であるならば、1回のみ参加ではなく、収穫までの一連の流れに参加して欲しいと思う。単発も勿論大歓迎だが、一連の流れを体験する人を優遇するなど、そういうことも検討して欲しい。
H 委員	久留米のフルーツ観光について、観光課と連携した呼び込みというのはどのようになっているのか。
事務局	観光国際課と連携をとりながら、農業経営に関するものは農政部で、一方で、Wi-Fi の設置などインバウンド、外国向けの看板表記は観光課の方で進めている。これらの事をバラバラに進めていっても意味がないので、連携をしながら事業を進めている。
A 委員	継続してこの地域に来てもらうという事を考えた場合、例えば、柿の新しい品種で“秋王”などを、作付けする時から自分の木を持って、それを定期的に見て、収穫するような“木のオーナー制度”を“くる農”に取り入れたらどうか。
事務局	オーナー制度は今まで想定をしていなかった。様々な難しい部分もあるが、ご意見があったという事で“くる農”の中で、またフルーツ観光、観光農園の部分も含めたところで協議をさせていただきたい。

#### 4. 情報提供

I 委員	グローバル GAP について、サラダ菜部会が取り組んでおり、1月に国際認証を受ける見込。234 のチェック項目や費用面など難しいところもあるが、市からも支援をいただき、ここまでくることができた。オリンピックの食材利用も視野に入れており、今後必要な取組になると考えている。
------	---